

様式 1

県立竹園高等学校【総合的な探究の時間計画】（令和 8 年度）

学校の教育目標

未来においてよりよい社会のづくり手を育むための場をつくるため、以下の項目を重点とした学校づくりを行う。

○自己・他者・地域・国際社会などの多角的な視点を持ち、諸問題に対する幅広い関心と理解のもとに課題解決を図ることができる資質能力が育つ学校

○英語・日本語など複数の言語で議論するコミュニケーション能力を磨き、他者の意見を尊重し合意形成を図ることができる資質能力が育つ学校。

○自国の文化や歴史を尊びアイデンティティを確立し、持続可能な共生社会の実現に向けて主体的に考えて行動できる人間が育つ学校。

総合的な探究の時間の評価

目標と育成する資質・能力	学習評価	配慮を必要とする生徒への支援方法
自ら問いを立て、仮説を設定し、検証・修正する力や他者と対話しながら考えを深める力、学びを社会と接続し、自らのキャリアに意味づける力	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度	問いの設定を段階化 グループ探究の選択可 成果ではなくプロセス評価を明確化（自己効力感の担保）

各学年における主な取組内容

学年	主たる探究課題及び学習活動	外部との連携	育成を目指す生徒像
1 年 探 Q 基礎	問いの立て方トレーニング データの取り方・対話の仕方 キャリアとの接続（講演・ワーク）等	しびつくばわー E0 Ibaraki など	「問いを立てられる生徒」 「正解がなくても考え続ける生徒」
2 年 探 Q	・国際科：探 Q 指導員によるサポート ・普通科：フィールドワークを含むつくば市やその他 ・共通：個人またはグループ探究 地域・社会課題・学問分野と接続 フィールドワーク・実験・調査 中間発表→改善→再探 Q	筑波大学やつくばスタートアップエコシステムコンソーシアムなど	「自分のテーマを持ち、深められる生徒」 「他者と協働しながら価値を生み出せる生徒」
3 年 探 Q	探究成果の社会への発信。ICT・データサイエンスを用いた再分析。後輩への還元など	筑波大学など	「自分の学びを社会に接続できる生徒」 「他者に価値として届けられる生徒」 「進路選択を自分の言葉で語れる生徒」